

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月20日現在

機関番号：11401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530946

研究課題名（和文） 家族・家庭をつくるシティズンシップ教育の言語活動と実践構図

研究課題名（英文） The role of teachers and the practical strategy in family citizenship education.

研究代表者

望月 一枝 (MOCHIZUKI KAZUE)

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号：60431615

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、家族・家庭をつくるシティズンシップ教育の言語活動と実践構図を明らかにすることである。理論上の検討では、「私」と「公」の境界を疑うことによって、生活課題をミクロ、マクロな政治的な問題として捉えた。実践分析では、デイビソンのディスコース論を本研究の理論枠組みとして教師のポジショナリティを分析し実践構図を検討した。教師の役割は、活動と対話のフレームワークをつくることである。その学習過程は、第一次ディスコースと第二次ディスコースの相互作用であり、生徒がシティズンシップを身につける過程であった。第二次ディスコースを変容させ、教師のディスコースをも批判的に問い直すものである。

研究成果の概要（英文）：

The object of this paper is to explore the role of teachers and the practical strategy in family citizenship education. This paper consists of two parts: theoretical research and case studies. In the theoretical research,; First, the paper calls into doubt the boundary of “the private” and “the public” which are woven into daily life and brings up political matters, both micro and macro, as issues to discuss. Second, teachers’ positionality is discussed. In the case studies, the role of teachers and the practical strategy are explored by analyzing educational practices covering home economics from the viewpoint of teachers’ positionality applying Davison’s Discourse theory. The teacher’s role was to structure the framework of the dialogue and the activity. That was a process where the Primary Discourse and the Secondary Discourse had a dynamic interaction and the students acquired the eligibility for citizenship. The change in the Secondary Discourse consequently restrained the teacher’s leadership and exposed her discourse to criticism.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：シティズンシップ、ディスコース分析、家族・家庭、教師のポジショナリティ、言語活動

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、子どもや若者にシティズンシップを育むシティズンシップ教育は、世界各国に急速な拡がりをみせている。日本においても子どもや若者に社会を形成する能力を育むシティズンシップ教育の意義が浮上し、市民を育てる公教育づくりの実験が始まっている。他方、子どもの貧困や若者が仕事に就けないなど、家族をつくることに困難な課題がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、家族・家庭をつくるシティズンシップ教育の言語活動と実践構図を明らかにすることである。

3. 研究の方法

家族をつくるとは、どのような能力と資質が必要なのか、公と私の境界を疑うジョーンズとウォーレスのシティズンシップ論や岡野八代(2009)のシティズンシップ論を検討する。つぎに授業における言語活動について、イギリスのシティズンシップ教育研究者であるディビソンのディスコース論

(Davison2000)を用いて、家庭科の家族の授業をディスコース分析し、生徒がどのように家族・家庭をつくる能力と資質を身につけたか、そのときの教師の言語活動の特徴と実践構図を考察する。

4. 研究成果

これまでのシティズンシップ論は、シティズンが活動する場を公的領域に限定して論じてきた。ジョーンズとウォーレスは、個人の生活を公的なプロセスにつなぐシティズンシップ論を議論している。また、岡野は、「公」と「私」に境界線を引いてシティズンシップ論を論じることに問題が孕まれると指摘する。たとえば、「子どもたちに心配りをする母親の必要性」と「自立したシティズン」が対となって構造化され、一定の者たち(たとえば母親たち)を二級市民へと囲い込み続けると指摘した。つまり、これまでのシティズンシップ論は、具体的な市民一人ひとりに対する応答ではなく、一般的な原理・規則への遵守が強調され、具体的な他者に対する無関心が醸成されてしまう。岡野は、責任はつねに関係性の中でこそ新しく生まれて

くるのであるから、ヴァルネラブルな者をケアする責任を社会の中で分有し、ケアが必要な者が放置されない仕組みが必要であると論じている。

本研究では、これらをふまえ、シティズンシップを身につける家族の授業を分析対象とした。家族をつくる資質・能力は、授業を公共的な空間にすることにより育まれる。生徒は、私的で個人的なことだと思っている家族のことを公的で社会的なものとの関連で考えることができるようになり、家族の困難を社会や公的な制度にアクセスしながらより良い方策を模索するようになった。

授業における言語活動をディスコース分析した結果、教師の言語活動の特徴 (Positionality) が13点見出された。それは、つぎの3点に整理できる。(1) 授業を公共的な空間とするために教師は自覚的に権力性を用いてフレームワークを構成していた。(2) 生徒が言語活動で思考を深めるために、「I・R・E」や「評価」を少なくして、「質問」や「再話」を用いていた。(3) 生徒の発話の文脈にそって、社会的、公的なものと関連させるために、教師のメタ知識を用いていた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ①望月一枝、食教育における教師のポジショナリティー—授業ディスコースを中心に—、日本家庭科教育学会誌、53巻、1号、2010、14-21、査読有
- ②妹尾理子、金子京子、倉持清美、望月一枝、阿部睦子、幼児の遊びの中の会話から展開

する“発達”を学ぶ教材開発、日本家庭科教育学会誌』日本家庭科教育学会誌、53巻、4号、2011、247-254、査読有

- ③望月一枝、シティズンシップ教育における教師のポジショナリティー—家庭科教育実践と生活指導実践に着目して—、2011、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 人間発達科学専攻 博士学位論文 博甲第649号、2011、214頁、査読有
- ④望月一枝、齋藤遥子、芳谷由佳子、中村淳、栗山将幸、阿部寛之、田村和典、授業におけるディスコース分析—教師の言語活動を中心に—、秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要、第33号、2011、13-23、査読有
- ⑤望月一枝、倉持清美、金子京子、妹尾理子、阿部睦子、幼児の会話教材を用いた授業の言語活動における教師の方略：授業ディスコースを中心に、日本家庭科教育学会誌』日本家庭科教育学会、54巻、3号、2011、155-164、査読有

[学会発表] (計2件)

- ①望月一枝、他者に応答するシティズンシップ教育、日本家庭科教育学会、第53回大会、2010
- ②望月一枝、もうひとつのディスコースへの気づき—小学校家庭科の家族の学習過程、日本家庭科教育学会、第54回大会、2011

[図書] (計2件)

- ①望月一枝、佐々木信子、長沼誠子編著、未来型学力を育む家庭科、開隆堂出版、2011、209頁

②望月一枝、勁草書房、シティズンシップ教育と教師のポジショナリティー家庭科・生活指導実践に着目して、2012、273 頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

望月 一枝 (MOCHIZUKI KAZUE)

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号：60431615